

令和5年度桜園研究賞

受賞者：丹 佳子 教授（看護栄養学部）

業績題名：「養護教諭の能力向上のための教育に関する一連の研究」

受賞理由：

丹佳子教授は本学へ着任以降、養護教諭（一種）養成課程の教育に尽力されるとともに、養護教諭の緊急度・重要度の判断のためのフィジカルアセスメント能力、臨床推論能力等の向上のための研究を継続して行ってこられた。就任以降、上記研究課題における研究代表者としての科学研究費の採択は計7件であり、その研究力の高さは実証されている。

養護教諭はけがや体調不良を訴える子どもに対して、必要な情報を収集して緊急度・重症度判断を行い対応を決める。時に生じる重症事例にも確実に対応できる力が、養護教諭には求められている。緊急度・重症度判断においては、収集した情報を短時間で的確に判断に結び付ける「思考プロセス」が非常に重要である。丹教授は、緊急・重症度判断力を高めるために、「思考プロセス」に着目し、効果的な教育方法について研究を重ねられている。

その研究で得た知見は本学の養護教諭教育課程の教育に還元され、看護師の資格をもつ質の高い養護教諭の育成に貢献されている。

以上のように、研究功績およびそれを活かした教育への貢献に鑑み、本学教員にとって研究者としての模範であることから、桜園学術三賞研究賞に推薦され、受賞に至った。